

「地域とともにある学校、地域に愛される学校」を目指して 木津川市立木津中学校コミュニティ・スクール（CS）

□はじめに

子どもたちを取り巻く環境は、グローバル化や高度情報化、技術革新など、急激に変化し続けています。それに伴い、学校の抱える課題の複雑化、多様化も生み出されており、もはや学校だけでは解決できず、学校や地域、関係機関が一体となって取り組んでいかなければなりません。つまり、地域社会全体で子どもたちを守りはぐくむことが必要不可欠となっています。第2次木津川市教育振興計画で「めざす教育の姿」においても、「木津川市の力を結集し、地域社会全体で守りはぐくむ」を目標としています。木津川市のめざす教育を実現するため、地域社会全体で子ども達を守りはぐくむ仕組みとしての「コミュニティ・スクール（学校運営協議会が設置された学校）」の設置が必要です。本市のすべての小・中学校にコミュニティ・スクールを設置するため、「木津川市立コミュニティ・スクール構想」が策定されました。

1 CSとは

地域と学校が連携・協働して、子どもたちの教育を進めていく仕組みを持つ学校

「特徴」

- ・地域住民や保護者などで構成される「学校運営協議会」を設置し学校運営等に対して意見をいただき、協力を得る。
- ・地域と一体となった教育活動を目指し、地域の人材・施設・文化などを活用し学校教育に地域の力を取り入れる。
- ・開かれた学校づくりを目指し、保護者・地域と情報を共有し信頼関係を築く。学校行事や学習活動に地域住民が参加することも計画する。

2 CSの必要性

背景：時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ◆教育環境を取り巻く状況 | ◆社会の動向 |
| ○子どもの規範意識等への課題 | ○グローバル化や情報化の進展 |
| ○学校が抱える課題の複雑化・困難化 | ○地域社会のつながりや支え合いの希薄化 |
| ◆教育改革の働き | ◆地域創生の働き |
| ○「社会に開かれた教育課程」の実現等 | ○学校を核とした地域の活性化 |

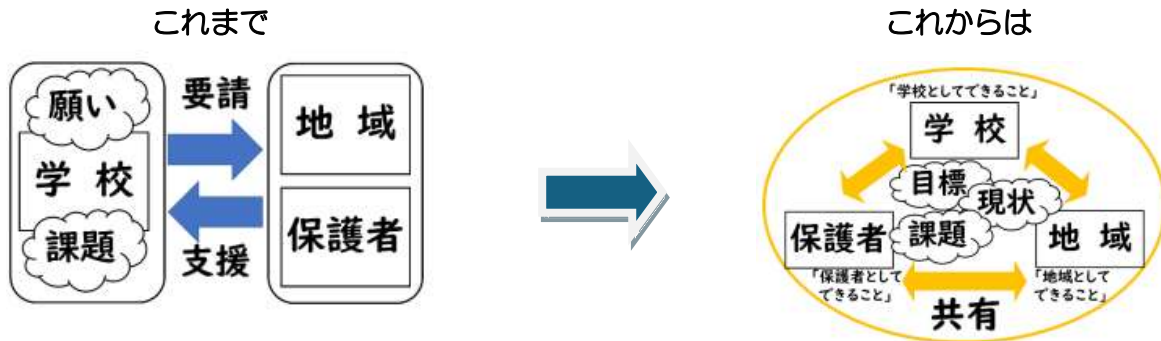
求められるもの・・・

- ◆これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）
- ◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」の発動



学校と地域の連携・協働が必要

- ① 目標やビジョンを共有
- ② 学校と保護者、地域住民等との間の信頼形成
- ③ 子どもの社会性を育む ⇒ 「人は人を浴びて人になる」



3 基本方針

木津中学校では、地域とともにある学校づくりを進める中、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、子どもたちの健やかな成長と豊かな学びを支えることを目指す。

そのために、地域の歴史や文化、人的資源を教育活動に活かすことで、生徒の主体性や社会性を育み、地域を愛し、未来を切り拓く力を育てる。また、地域のつながりを通して、他者との対話や協力の大切さを学び、社会で生き抜くためのコミュニケーション力や課題解決力を高める。学校・家庭・地域が連携し、生徒一人ひとりが自分らしく活躍できる、安心して開かれた学びの場を築く。

4 学校運営協議会委員（敬称略） ※木津川市立木津中学校学校運営協議会規則

	名 前	所 属	備 考	第8条2項 ※
1	塚田 高司	学校評議員	評議員代表	(1)
2	濱野 陽子	学校評議員	評議員代表	(1)
3	角山 稔樹	学校評議員	評議員代表	(1)
4	西 洋祐	元木津中学校 PTA 会長	保護者代表	(2)
5	辰本 千春	民生委員	民生委員代表	(3)
6	江並 知加	地域コーディネーター	地域代表	(3)
7	山口 和明	元木津川市中学校長	地域代表	(3)
8	永野 隆	木津児童館	児童館代表	(3)
9	北澤 喜幹	木津中学校 校長	学校代表	(4)

事務局	名島 貴子	木津中学校 教頭
	藤井 達也	木津中学校 教頭
	板垣 正稔	木津中学校 教務主任